

2023年 8月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

- 8月 6日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会 : 永井 徹 感話 : 笹井 あかね
聖書講話 : マルコによる福音書 14章43~52節
「イエスの逮捕一人々の姿とイエスの孤独」 水戸 潔
- 8月13日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会 : 大手 美千代 感話 : 大屋 智代
聖書講話 : ガラテアの信徒への手紙 3章~6章
「肉に従うのでもなく、律法に従うのでもなく、御霊によって歩め」 溝口 春江
- 8月27日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会 : 武井 陽一
聖書講話 : コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章1~10節
「病について」 岩田 堯

福音はあらゆる民への証しとして、全世界に伝えられる 溝口 正

そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる。そのとき、多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷える。

(マタイによる福音書24・9~12)

マタイ福音書(80年代に成立)の著者は、時代的に見て若き日にネロの迫害(60年頃)を経験し、さらにローマのドミチアヌス帝(在位81~96年)の大迫害が始まる前か、その渦中においてこの福音書を書いたのかも知れないと私なりに想像しつつ、その緊迫した状況が24章の「終末の徴」に反映しているにちがいないと推測しながら、本稿の筆を進めている。

しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に伝えられる。それから、終わりが来る。(マタイによる福音書24・13~14)

キリスト者にとって緊迫した危機的状況になればなるほど、最も重要なことは、慌てず冷静に生けるキリストにしっかりと固着し、身も心も、そうだ、全存在を委ね切って耐え忍び、主のもとに最後まで留まる者が救われるのである。

13節の「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」と言われたイエスの預言は、我々が地上の短い生涯の中で苦難に遭遇し、最後まで耐え忍ぶ信仰を現実に貫いた者でなければ容易に取りつぐことのできない重い言葉である。マタイ福音書の著者は、おそらくその体験を持つ一人ではなかろうかと推測しつつ、私はこの重い言葉を心に刻んだ。

続いて、最後まで主に忠実に服従する人々の命を賭けた証しによってキリストの福音は全世界の人々の間に宣べ伝えられて行くことが告げられる。このイエスの預言は、キリストの福音のみが全世界に行き渡り世界を救う真の福音であることを示している点で、極めて重要である。私は、キリストの福音によって全人類を救わんとする神の熱心をここに読み取る。「終わりは来る」までに「知らなかった」「聞かなかった」などという人が一人もいないようにと朝夕祈らねばならないと私は思う。

14節はイエスの福音が全世界に隅々にまでに行き渡った後に、終末の完成としての「終り」が来ることを告げて終わっている。